

金沢八景に開業して



池澤善郎

あい皮ふ科アレルギー科
(横浜市金沢区)

横浜市立大学における通算約38年間の教員生活を2011年3月に定年退職し、その後に勤務した国際医療福祉大学熱海病院における単身赴任を3年3ヶ月で退職することを決めてから、それまで週末の約半日のみ働いていた「あい小児科アレルギー科」などの自宅から通勤が容易なクリニックでのパート勤務の話を進めておりました時に、京急金沢八景駅のすぐ近くに建設される予定の建物に、皮膚科クリニック開院のお誘いがありました。これまでは、大学・皮膚科学教室・医局といった組織の一員として、多くの人達のご支援を頂き、職務を果たして参りました。しかしながら、今はそこを退職することにより自由な身となることで、あらためて自分の出来ることは何かと自問した時に、少々不安もありましたが、これからは自分を必要としている人のために自分の出来る皮膚科診療を始めることに大変魅力を感じ、お誘いのあったこの地に「あい皮ふ科アレルギー科」のクリニックを開院することにしました。

思えば、1964年の18歳の時に埼玉県の高校を出て、京急金沢八景駅に降り立って横浜市立大学に入り、その丁度50年後の2014年に同じ金沢八景駅のすぐ近くで「あい皮ふ科アレルギー科」を開院することになり、大変感慨深いものがあります。私の父は京城帝国大学（現ソウル大）医学部内科学講座の京城府立病院長兼務の教員として働いていた時に45歳で終戦を迎え、生まれ故郷である埼玉県の片田舎、元荒川と星川（見沼代用水）の間にある共和村（その後近隣の2村と合併して川里村に、そして現在は鴻巣市に編入され消滅）で開業医として生涯を終えました。私も、色々なことがありましたが、長い教員生活を終え、金沢八景駅のすぐ近くで地域医療の原点である開業医として頑張りたいと思っております。

す。

クリニックの海に向かって左手のすぐ近くにある瀬戸神社は、中世都市鎌倉の外港として栄えていた武蔵の国、六浦の庄（現金沢区域）における中心的な神社で、元来、この地は、今日の泥亀町から釜利谷東一帯が大きな入り江となっており、この入江と平潟湾とは今の瀬戸橋の位置にあたる狭い水路状の海峡で繋がっていました。この小さな海峡は、潮の干満時に内海の海水が渦を巻いて出入りする「せと（狭い海峡）」であり、海上交通の難所であったため、5～6世紀の頃から海神を祀っていたようですが、社伝によれば1180年（治承4年）、この霊地に源頼朝が挙兵に際して戦勝を祈願し、伊豆三島明神を勧請したのが瀬戸神社の始まりとされています。背後に鎮守の森を背負っていますが、その森も道路拡張や再開発で削られて、今は後ろに回るとたちまちダイエーやサニーマートのショッピングモールが続く近郊都市の風景に変貌しています。私が横浜市立大学を受験した時に泊まった宿は、確か瀬戸神社に隣接した旅館でしたので、シーサイドラインと京急の金沢八景駅が一緒になることに伴って、今まさに進められている各種店舗やマンションの再開発中の一帯であり、わたしのクリニックは恐らくその付近ですので、何か不思議な縁を感じます。

去年の8月にクリニックを開院して丁度9ヶ月が過ぎたところで、診療の流れがようやくつかめてきた感じで、自分を必要としている人のために働ける毎日を楽しんでいます。しかし、診療手順も不慣れのためか、一人あたりの平均診療時間が結構かかり、また今までと違って何から何まで自分でやらないと何も進まないために、自分の時間が余りにないことに驚いております。そしてこれまで多くの人に支え

られてやってこられたのだということを実感し、あらためて、これまでかかわってきた人達に対する感謝の気持ちで一杯です。

また一方では、横浜市立大学をやめて国際医療福祉大学熱海病院で働いた時感じたことですが、さらに金沢八景でクリニックを開院してから、それ以上にこれまでの市大の皮膚科診療では余り経験しなかった「容易に患者満足度の得られにくい毛孔一致性の難治なご瘡様皮疹、病名を何とすべきかに悩むような痒疹様・多形紅斑様皮疹、アトピー性皮膚炎(atopic dermatitis: AD)の合併またはそれとの鑑別の診断に悩むような治療に苦慮する多様な脂漏性皮膚炎様皮疹や酒さ様・ご瘡様皮疹など」を数多く診療する機会を得ました。その経験をもとに多様なADについては、ADに対するアレルゲン関与の視点からAD患者を便宜的に、

- ①食物アレルギーの関与する乳児AD
- ②食物アレルギーの関与する学童期・思春期以降のAD
- ③金属アレルギーの関与するAD
- ④汗アレルギーの関与するAD
- ⑤脂漏性皮膚炎合併型AD又は皮表の常在真菌マラセチア・アレルギーの関与するAD

の5つの臨床病型・タイプに分けてその診断と治療のポイントについて最近まとめました(小児科診療、77(10):1291-1296, 2014.10.)が、皮表の常在細菌叢とその特異な過敏症が関係していると思われる酒さ様皮膚炎や、ご瘡様皮膚炎などが関与したADの新たな臨床病型の確立が必要と感じています。

これからもこうしたクリニックでの出会いから生まれる「学びと疑問」を大切にして皮膚科診療を進めて行きたいと思います。宜しくお願い致します。

まりこの皮フ科



本田まりこ

まりこの皮フ科
(横浜市鶴見区)

昨年の3月に41年間勤めた東京慈恵会医科大学皮膚科を定年退職し、6月10日より、横浜の鶴見西口駅そばに開院いたしました。鶴見には、戸塚より転居後、昭和29(1954)年より居住しております。当時は、山間に田んぼと畑がみられ、キジ、コジユケイなど裏山で猟をすることもできました。三ツ池公園、二つ池、鶴見川でつりをしたり、凍った田んぼで下駄をアイススケート靴代わりにして滑ったり、良く遊んだものです。それが今や山は崩され、田畑は埋められ、住宅だらけに変貌してしまいました。しかし、鶴見は緑地地帯に指定されているために、他の地域より宅地建設に制限が加えられ、緑地が多くなっています。

小・中・高と近くのミッションスクール(聖ヨセフ学園)に通学していた私は、はじめて大学(東京女子医科大学)の通学のため、東京に通うことになりました。ラッシュのすごさなど、はじめはノイローゼ気味になり、友人から東京に住んだらと提案されても、鶴見が好きな私は、どんなに勤務先が遠くて

も(清瀬、清水、七沢、厚木、御殿場、青砥など)、定年まで通い続けました。この年になって電車事故の遅延や運休がほとんど嫌になり、電車通勤がない鶴見に開業することにいたしました。また、ヘルペスウイルス、特に性器ヘルペスや帯状疱疹後神経痛を専門にしている関係上、地方から訪れる患者さんが多いために、駅そばで予約制の皮膚科医院にしました。専門性に重きを置いていますので、毎週水曜日の午前中、東京慈恵会医科大学皮膚科名誉教授である新村真人先生に、神経線維腫症、疣贅、各種腫瘍などを診ていただいております。

看護師さん3名、事務員3名で、自費診療はエステティシヤンの姉も手伝う形で、午後2時から4時半までを充てています。その時間帯に一般手術やレーザー治療を私が行っています。一般外来は、朝8時30分より11時半までと夕方16時30分より19時までで、30分5人として1日60人前後を診察しております。休診日は木曜で、東京慈恵会医科大学へ診察に行く水曜日は、午前中までとし、また土曜日

12時までには終了するようにしております。

外来の半数近くが、他県の方達で、茨城県の方が多いのには驚いております。東京慈恵会医科大学葛飾医療センターでの勤務は、毎日診察に明け暮れていたもので、今の生活は楽に感じています。また、60歳までは、大学の寝られない当直を月2回行っていたので、医師会の当直はお断りいたしました。自分の年齢と相応にのんびりゆっくりと診察しているわけですが、沢山の患者さんをこなしていっしょ

先生方には敬服しております。収入は赤字なので、当分休診日の木曜日は、コンピューター会社の診療所へ行って、稼ぐつもりでおります。

もうそろそろ開院後1年になりますが、時間ができれば、すでに購入してある内科専門医の教科書とDVDでじっくり勉強したいと思っています（たぶん本棚に置き放しとなると思います）。

お酒と園芸、旅行が好きな私ですが、今後とも宜しくお願いいたします。

開業の御挨拶



谷口友則

長津田皮膚科
(横浜市緑区)

平成26年5月に長津田皮膚科を開院いたしました。当院の最寄り駅は長津田駅で、JR横浜線、東急田園都市線、こどもの国線が停車する交通の要所です。当院は駅から徒歩1～2分のところに位置し、電車からのアクセスには優れております。駅周辺、特に当院周囲は閑静な住宅街です。大きく開発されることもなく、昔ながらの様子を保っています。夏の夜に家路につくと、窓があいているためか、道路に家族の笑い声が漏れてくることもあります。昔ながらの住宅街のため周囲の道路が狭く、車で来院されるのは大変です。当院の裏には幼稚園や保育園があり、毎朝とても賑やかです。当院は長津田メディカルヴィレッジという医療モール内にあり、他に消化器内科と歯科口腔外科があります。気さくな先生方であり、診療やそれ以外のことに関しても分からないことがあればすぐに相談できるのが嬉しいです。

私はといいますと、北里大学医学部を平成17年に卒業しておりますが、医学部入学以前に青山学院大学法学部を卒業しております。はじめ法学部に入学した理由は、両親が弁護士であったので後を継ごうと思ったためです。青山学院というと、「渋谷」というイメージが強いです。しかし、今でこそ法学部は教養課程と専門課程いずれも渋谷キャンパスで過ごしますが、当時は教養課程（1・2年）を厚木キャンパス（厚木市森の里）で、専門課程（3・4年）を渋谷キャンパス（表参道）で学んでおりま

した。渋谷に憧れて入学した方もおりましたが、そうは問屋がおろしません。受験する際には赤本を読んでも厚木キャンパスの孤島ぶりは伝わってこず、これが受験生にはじめから分かっていたら、間違いなく偏差値が10以上は下がるのではないかと感じておりました。また、3年生になり渋谷キャンパスに通っても、司法試験の勉強をしていたため、在学中は多くの時間を結局はストイックに過ごしてしまいました。今にして思えば、もっと学外で楽しんでおけば、“はじけた”感じになれたかもしれないと悔やんでおります。ただ、このように司法試験の勉強をしている中、以前より持っていた医学への興味が消えず、自分の中で次第に大きくなっていきました。青学を卒業した後、医学部進学に転向し、北里大学に入学致しました。大学病院で初期研修を行い、皮膚科学教室（勝岡主任教授）に入局致しました。大学病院の外来・病棟で修業を積みつつ、横浜医療センター、上村病院、東芝林間病院に行かせて頂きました。

開業を志した端緒はこの辺にあります。いざ入院中の患者さんが退院しようとしても、帰った先での皮膚科治療が続けられないために、退院できないことが頻繁にありました。また、皮膚疾患が悪化したからと、寝たきり患者を家族が苦勞して病院に搬送することもたびたびありました。そのような中で皮膚科診療所がまだまだ不足し、病院からの外来患者

の受け入れが不十分であると感じておりました。私が働くことで、少なくとも周辺でそうした状況を少しでも改善できればと思い、まだまだ修行中の身ではありますが、開業しようと思いました。未熟ではありますが、大言壮語にならないよう努めます。

開業して1年が経ち、周辺の方々に診療所の存在がようやく認知されはじめました。近くのコンビニエンスストアやスーパーの店員さんに顔を覚えられ、ときどき話しかけられます。出かけるのはお昼

休みが多く、早く休憩したいため、なるべくなら話しかけずにそっとしておいて頂けると有り難いです。が、やっぱり「手荒れが治らないのよ〜」とか「このホクロ大丈夫？」などとはじまります。早く帰りたい気持ちを抑えつつ、信頼してもらっていると喜びながら、営業用スマイルでお話します。

まだまだ若輩者で、診療を楽しむ域には達していませんが、努力して参ります。今後ともご指導のほど、宜しくお願い致します。

新米開業医となって

当院は初代院長である父が昭和52年に伊勢原市高森で開業し、昭和57年に現在の伊勢原駅前に転居して以来、38年目となります。平成26年5月に私が父より継承しました。

私は埼玉医科大学卒業後、同大学皮膚科へ入局し6年間、土田哲也教授のもとで多くのことを学び、修練しておりました。その後、地元が伊勢原であること、開業を見据えて、平成19年に東海大学皮膚科へ入局しました。東海大学への入局当初は、父の診療所を手伝いすることなく、東海大学の業務に勤んでおりました。平成23年末頃より父が体調不良となり、週に数回、加藤皮膚科医院の外来を手伝いながら、東海大学では常勤として診療、教育、研究などに携わっておりました。この期間に大学、診療所を交互に行き来することで、密に地域医療連携をとることにつながり、長年勤めているベテランスタッフにも助けられ、東海大学退職後、スムーズに診療再開することができました。医局員が不足する中、東海大学小澤明教授のご配慮により、加藤皮膚科医院を手伝うことが出来たことをとても感謝しております。東海大学では腫瘍の専門外来や手術を担当し、開業した現在も週1回、同外来と手術を継続し、勉強させていただいております。

平成26年3月退職後、5月より新規開業となりましたが、連日診療ができることで、新たに小手術、



加藤正幸

加藤皮膚科医院
(伊勢原市)

巻き爪クリップ、エキシマライトなどを取り入れ、元々父がおこなっておりました往診も再開しました。診療、レセプトのみでなく、管理者としておこなわなければならない手続きがたくさんあることを知り、とても苦勞しました。新規開業前には内装工事と新たに看板をつくることにしました。内装は柔らかい印象でリラックスできるように、ピンクを基調とした空間にしました。父は蘭の花が好きであり、私が幼少のころからカトレアなどの蘭を趣味で育てており、「かとう (Kato)」と「カトレア (Katorea: 正しくは Cattleya)」のひびきが似ていることから、看板のロゴをカトレアのマークにしました。

診療に関しては、長年父が診療していたこともあり、地域の先生方からも患者を紹介していただく機会があります。また東海大学の先生にも診断が難しい症例や重症例などの際には、お世話になっており、大変ありがたく思っております。

現在父は療養中ですが、常々「患者を大切にしろ、患者から教わること多し」と話しておりました。今までの経験を活かし、今後も父が長年診ていた患者を尊重し、地域の先生方や大学の先生方と連携をとり、伊勢原市に根付いた医療ができるよう心がけてまいります。

今回このような機会を頂きありがとうございました。